

## 校長の話

校長 上村 哲也

第一小学校のみなさん、新年あけましておめでとうございます。

令和6年、新しい年、そして3学期が始まりました。いつもとは違う特別な気分にいることと思います。

年明け早々に、大変な災害が起きてしまいました。「令和6年 能登半島地震」、多くの人たちが愛着のある家を失い、たくさんの人命が失われてしまいました。未だに被害全体は確認できず、厳しい非難生活が続いています。

こうして、穏やかに新学期を迎えることができたことを、とても幸せに感じます。お互いに、一日一日を大切にして、一生懸命頑張っていきましょう。

さて、年末に大掃除をしながらTVを流していたところ、NHKで「スピリチュアルジャパン 掃除～心を磨く～」という番組をやっていました。その番組は「サッカーワールドカップ試合後の日本人サポーターの掃除に不思議さを感じたイタリア出身のアンドレアさんという人が、掃除が盛んな中学校、掃除は修行の一環という禅寺を訪ね、掃除と日本文化の関係を探る」（NHK HPより）という内容でした。

今、外国から日本人の「掃除」という文化が注目されているのだそうです。みなさんは「学校で掃除をするのは当たり前」と思っていませんか。国立教育政策研究所という機関による調査では（対象は8か国）、子どもが学校の掃除を行っている国は日本と中国、それに韓国の3か国だけで、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツは掃除専門のスタッフが行っています。シンガポールでは、身の回りをきれいに保つ心構えを身に付けてもらおうと、日本を参考に、すべての公立小中学校で、子どもたちによる掃除が取り入れられるようになったそうです。

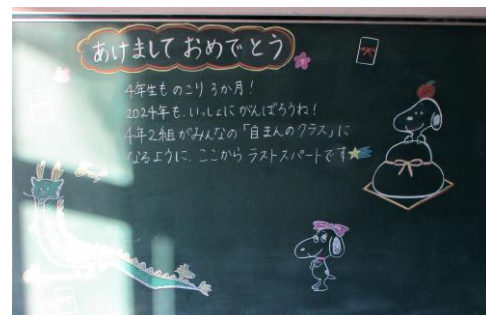
ところで、掃除の目的って何でしょうか？ 考えたことがありますか？

当たり前ですが、「学校をきれいにする」ということが挙げられます。ですが、日本の掃除の目的は、それだけではありません。実は、目的は別のところにもあります。それを番組で紹介されていた長野市立豊野中学校の「黙働」（無言清掃）から探ってみたいと思います。

（動画「スピリチュアルジャパン 掃除～心を磨く～」視聴、解説は校長）

この学校では、掃除を始めるときに「始めの会」を行います。心を落ち着かせ自分の目標を確認しています。

分担は決まっています。その役割を一人一人が果たそうとしています。会話は一



切ありません。それぞれが自分の成すべきことを考えています。職員室の掃除は、「申し出た人」がしています。やることが決まっているのではなく、自分で気づいた汚れを落とそうと、考えて取り組んでいるのだそうです。

インタビューを受けていた3人の生徒の話です。3人とも苦笑いしながら「掃除は面倒くさい」と言っていました。・・・こんな話もしていました。

A：最後までやりきるといふ考えをもつことが、勉強に生かされると思う。

B：面倒くさいことをやる大事さを、掃除を通して学ぶことができる。

C：どれだけ集中できるかが大切であると思う。その集中力を生活の中で生かしていきたい。

アンドレアさんは、この学校の取組を見て、「自分のプラスになることを意識して心を込めて掃除すると、自分も育つことが分かった」と話していました。

私は、この番組を見て、「黙って掃除をすること」の意味を問い直して見ました。

- 汚れている場所、乱れているものに気づくこと
- よい掃除の仕方、方法を考えること
- 周りの人の一生懸命な姿から、他者を大切に思い、尊敬する気持ちをもてること
- 集中力が育ち、夢中になって、心が穏やかになること

そして、このような気持ちや能力は自分を高めることにつながり、一生涯の財産となること

みなさんは、掃除にどんな意味があると考えてるでしょうか

第一小学校でも「だいじ清掃」（黙って・一生懸命・時間まで）に取り組んでいます。特に、6年生の掃除への取組は「立派だな」と感じています。しい姿を見ると、とても嬉しい気持ちになります。



最後に、まとめの一言です。今日という節目に、改めて「だいじ清掃」を心に刻み、自分を磨いていきましょう。

